



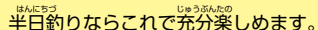
投げ遠投釣り用ロッド&リールセット

当ガイドは、釣行に「必要なもの」から「道具の扱い方とセッティング」、「釣るコツ」を紹介。
一度通して読んで、万全な状態で釣りに出掛けましょう!!

※堤防や磯では安全のためにライフジャケットを着て、釣りを楽しみましょう。

おお　こうぜんこ
 大きさ3号前後
 を使用します。ス
 ナップ付きヨリ
 モドシでも構い
 ません。

投げ専用の2本バリ仕掛け
 けを用います。ハリのサイズは4～6号。狙う魚の大きさに合わせて選びましょう。



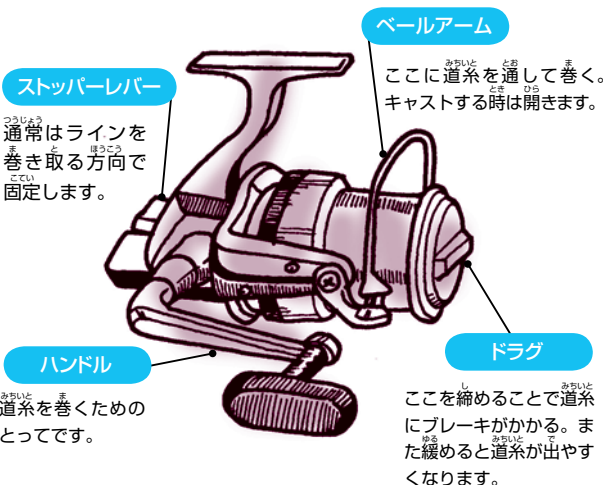
25号と30号を潮流しおなれに
よって使いつか分けわけます。根掛ねが
かりを想定そうていして予備よびも用意ようい
しましょう。

「フィールドプレイヤー」や「エサ箱」
など、『ゴールドマニュアルブック』の
118ページ~を参考にしましょう。



釣りぐ とくちょう ただ かいてき つ
釣具の特徴と正しいセッティングをマスターして快適な釣りを！

道系が多く巻け、さらに飛距離が出るようにスプールの形状が他のリールより大きくなっているタイプです。



イラストにあるつまみを回して圧を調整します。詳しくは、
ゴールドマニュアルブックの133ページをご覧ください。

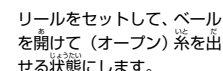
1～4の順^{じゆん}でセットしよう

作業は簡単。ロッドを
の
伸ばし、道糸をガイド
に通します。そして海
草テンビンと仕掛けを
結ぶだけです。
な
お投げ専用振り出し
ロッドは、短いうちに
糸をガイドに通すのが
特徴とおぼえて下さい。

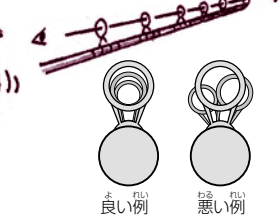
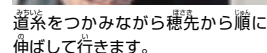
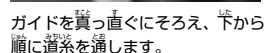
※ロッドの穂先（先端部）はデリケートなので、やさしく扱いたしましょう！



竿の先端にある
キャップを外し
ます。

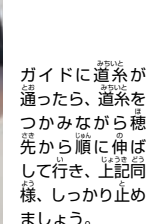
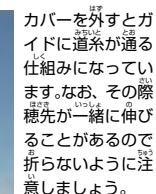
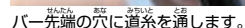


よい例・悪い例

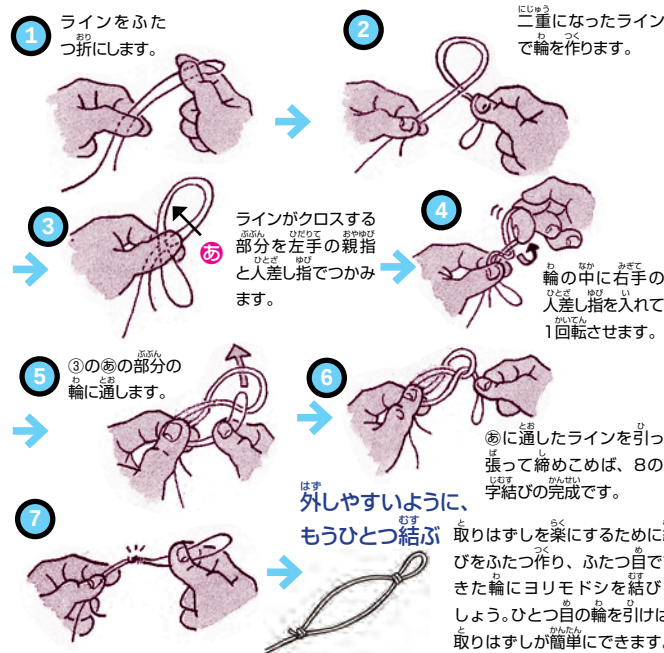


伸ばし切ったら再度、ガイドが一直線になっているかを確認します。この際、継ぎ目の締め具合を調節。ジョイント部を軽くねじ込むように引いて、しっかりと止めましょう。連糸がガイドから抜けられないように注意して行なえば大丈夫ですよ！

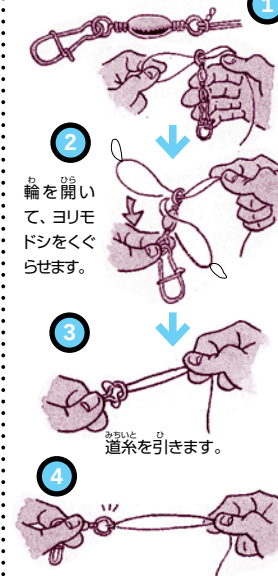
糸通しバー付きのキャップの場合



① 道糸で8の字結びを作る。



② ^{はこが}箱掛けにする



8の字結びで作った輪をヨリモドシの
アイに通します。

③ クリップに 仕掛け類をセット

クリップを開き、片テン
ピンや仕掛けに付いて
いるヨリモドシを通し
て止めます。片テンピ
ンは、腕先のクリップ
に仕掛けを同様にセッ
トして完了です。

4 仕掛けを付ける

3-③同様、海草テンビンの腕先にある
クリップに仕掛けを付けて終了です。

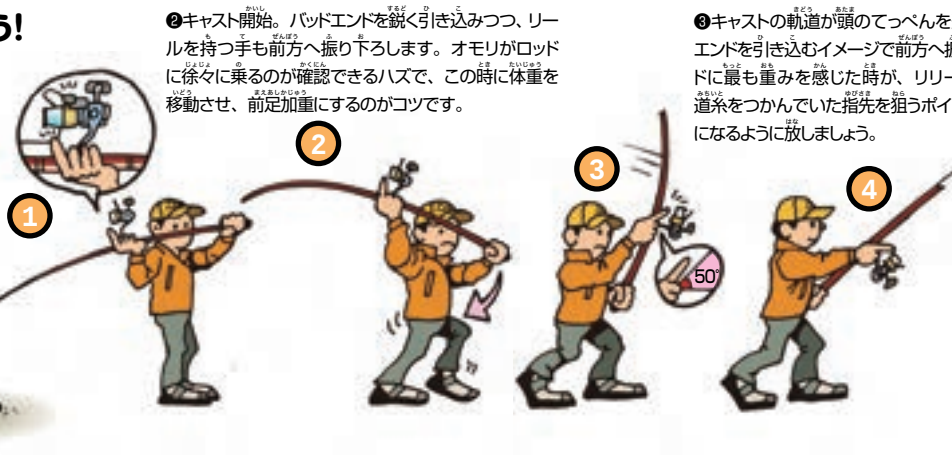
※^{うらめん}裏面は、^つ釣るためのテクニックを紹介!! ^{しょうかい}

●本格的な投げ方をマスターしましょう！

仕掛けを遠投するほど広範囲が探れ、魚との出会いが多くなる投げ釣り。正しいキャストイングを覚えれば、飛距離が出るので、きちんと覚えましょう。

なお、専用竿は、飛距離優先設計で、ノーマルロッドより長めに作られています。キャストする時は、周りに注意しましょう！

①始めから振りかぶった状態で、狙うポイントに構えます。通常のスピニンググリール同様、オープンベイルで道糸を人差し指でつかみましょう。またオモリは吊下げず、ラインをピンと張ったまま地面につけて安定させます。



③キャストの軌道が頭のてっぺんを通るように、バッドエンドを引き込むイメージで前方へ振り下ろします。ロッドに最も重みを感じた時が、リリースのタイミング。道糸をつかんでいた指先を狙うポイントに対して50度になるように放しましょう。

④仕掛けの行方を確認。仕掛けが海底に着地するのを確認したら、リールのベールを返して糸フケを取りましょう。思いきり投げようとして、7、8割程度の力でキャストして下さい。

★釣り方のコツ：サーフのシロギス、カレイ編

バージンポイントめがけてハイパーキャスト！仕掛けをヨブに入れてアタリを待つ!!

人気や実績があるポイントでは、なにかと釣り場が荒らされている可能性があります。釣りは可能な限り遠投を心がけましょう。キャストしたポイントが、バージンポイント（手付かずの場所）なら、魚と出会う確率も上がります。

ポイントの探し方と誘いマスターしよう

ポイントの探し方は、オモリを引きずった感触で海底の状況を判断します。

“ヨブ”や“カケアガリ”の場合は、スムーズに引けていたオモリが重く感じます。また“隠れ根”や“岩場”は、ゴツゴツとした感触になります。

ちなみに、初めての釣り場なら、仕掛けを結ばず、オモリのみでキャスト。海草帯や岩場だったら根掛かりして、仕掛けロストするのでオススメです。

【エサの付け方】



エサは、アオイソメやジャリメを使用。頭を落とし、ハリのチモトを隠すように刺します。シロギスの場合は、タラシを1～1.5cmに。カレイの場合は2～3cmとなります。

★ポイントはココ

2魚種とも、海底の地形が変化している場所を回遊しながら俵息。波の動きや潮の流れで作られた砂地の起伏“ヨブ”や“カケアガリ”は、絶好のポイントとなります。また、港を船が通るために掘られた“船道”や砂地に点在する“隠れ根”なども見逃せません。



シロギスの誘いは仕掛けをサビく

投げ釣りでは、ゆっくりと仕掛けを手前に引くことを「サビく」と言い、ポイントを探る時にも用います。

シロギスは、この「サビく」作業を速く行います。エサを海底から浮かせるイメージで、沖から手前にあるポイントを通り過ぎながら誘います。

もちろん食いが悪い時には、止めも入れます。速さの調整は状況次第で変えて、いろいろ探りましょう。

カレイは“待ち釣り”仕掛けをステイさせる

カレイはエサを活発に追いません。ゆえにポイントで待つ釣りになります。仕掛けをサビいて“ヨブ”などを見つけたら、そこで止めを入れます。起伏の底にエサが漂うよう、カケアガリ部にオモリをステイさせるのがコツとなります。ときどき仕掛けをサビいて、新たなポイントも探りましょう。



◆アタリとランディングも覚えておこう！

アタリは竿先に敏感に出ます。穂先がブルブルと動いたらアワセの準備。そしてそのアタリが大きくなったら、シュッと竿を引いてフッキングさせましょう。ランディングは波の力を利用して寄せましょう。イメージはサーフィンです。波が寄せるタイミングで魚を乗せ、砂浜まで引き上げましょう。



※かたすけ上手は、釣り上手！
返却日前日までに、しっかりお手入れを!!

レンタル釣具は、返却日までにはお手入れをし、元通りに梱包しておきましょう。また釣具にキズを付けたり、壊してしまった場合は、その箇所をメモに残して箱の中に入れておきましょう。

ロッドをたたむ場合は…

バッド部（竿尻）の継ぎ目から順にしまっていくようにしましょう。ジョイント部がキック縮まっている場合は、雑巾を絞るようにネジリながら押し込むとうまくなります。最後にカバーキャップをかぶせることを忘れないように！



※穂先絡みや巻き込み過ぎに要注意！



※むやみにロッドを地面に置かない！

自分はもちろん、他の人に踏まれて折れることがよくあります。ロッドを置く場合は、荷物に立て掛けるなど、地面に寝かせないように置きます!!